

前田隆平著「スイスで学んだ外交」会報No. 279号、日本工業倶楽部 2022年1月刊を読む

スイスで学んだ外交

1. 私がスイスから帰ってくる半年前の 2015 年 9 月、グリーンデルワルトと姉妹都市となっている松本市の中学生 40 名が交歓でスイスを訪れ、大使館にもやってきて私にいくつかの質問をした。その一つは、「外交とは何でしょうか」だった。さすがに私も一瞬考えた上でこう答えた。
2. (1) 「外交とは、日本と相手国との間の良好な関係を作り上げ、それを発展させていくことです。それこそが真の外交です。
(2) 私は 20 年前にワシントンの大使館にいました。その頃は経済の分野で日本とアメリカは喧嘩ばかりしていました。私も航空、自動車、造船の分野で大変な交渉に参加しました。その時、私は優秀な外交官というのはこのようなもめ事を上手に解決する人だと思いました。
(3) ちょうど消防士が消火をするように、言わば『火消し』こそが大事な外交だと思いました。アメリカにいる間、私は一生懸命仕事をしました。幸いもめ事は解決して、やったやったと日本に帰って来ました。その後も自分はアメリカにいる頃外交官として頑張ったと思い続けましたし、頑張ってもめ事を解決できたことから、自分はちゃんと外交をやってきたと思っていました。
3. (1) しかしスイスに来て、日本とスイスとの本当に仲の良い関係を見て、そして両国がもっともっと仲良くなれるように頑張った時に、それまでに抱いていた私の外交に対する考え方は間違っていたのではないかと思いました。
(2) 外交において最も大切なことはもめ事を処理することではなくて、もめ事などが決して起こらないような素晴らしい関係を作り上げること、そしてその素晴らしい関係を発展させること、これこそが外交であると気付きました。
(3) 私もこのような大きな発見ができ、また本当の外交というものをしっかり勉強できたと思ってとても幸せでした」。
4. (1) もう一つの質問は「僕は外交官になりたいです。どうすれば良い外交官になれるでしょうか」だった。この質問には私は即座に答えた。「良い外交官になりたいと思ったら、常に一生懸命勉強する人になることです。あなたがもしどこかの大使館に勤めたら、その国のことを勉強する必要があります。その国のことを勉強しなければその国を理解できないし、その国を好きになれません。またあなたは同時に日本のことも勉強しなければなりません。そうしなければ日本のことをその国の人に教えられないし、その国の人に日本を好きになってもらえません。相手の国のことを勉強し、日本のことを勉強して、初めて日本とその国が仲良くなれることに貢献できます。

(2)あなた方は今学校でいろいろな勉強をしています。国語も数学も社会科も理科もとにかく一生懸命勉強することです。勉強することが努力家になる第一歩であり、努力家になれば必ず良い外交官になれます。

(3)私はスイスに来てから一生懸命スイスのことを勉強しました。それは私を幸せにしてくれました。何故ならスイスのことを学べば学ぶほどスイスが素晴らしい国であることが分かったからです。そしてスイスのことを学べば学ぶほどスイスを愛することができたからです。」

4. これらは中学生の素朴な質問に対する答えだったが、私の 3 年間の大使生活の一つの総括だと思っている。

P51 ~ 53

<コメント>

スイス大使を勤められた前田隆平大使の中学生の 2 つの質問に対する答えは参考になる。「外交とは何か」「良い外交官になるには」の答えは、多くの仕事にもそのままあてはまるありがたい教えだ。

2022 年 2 月 2 日 林明夫記